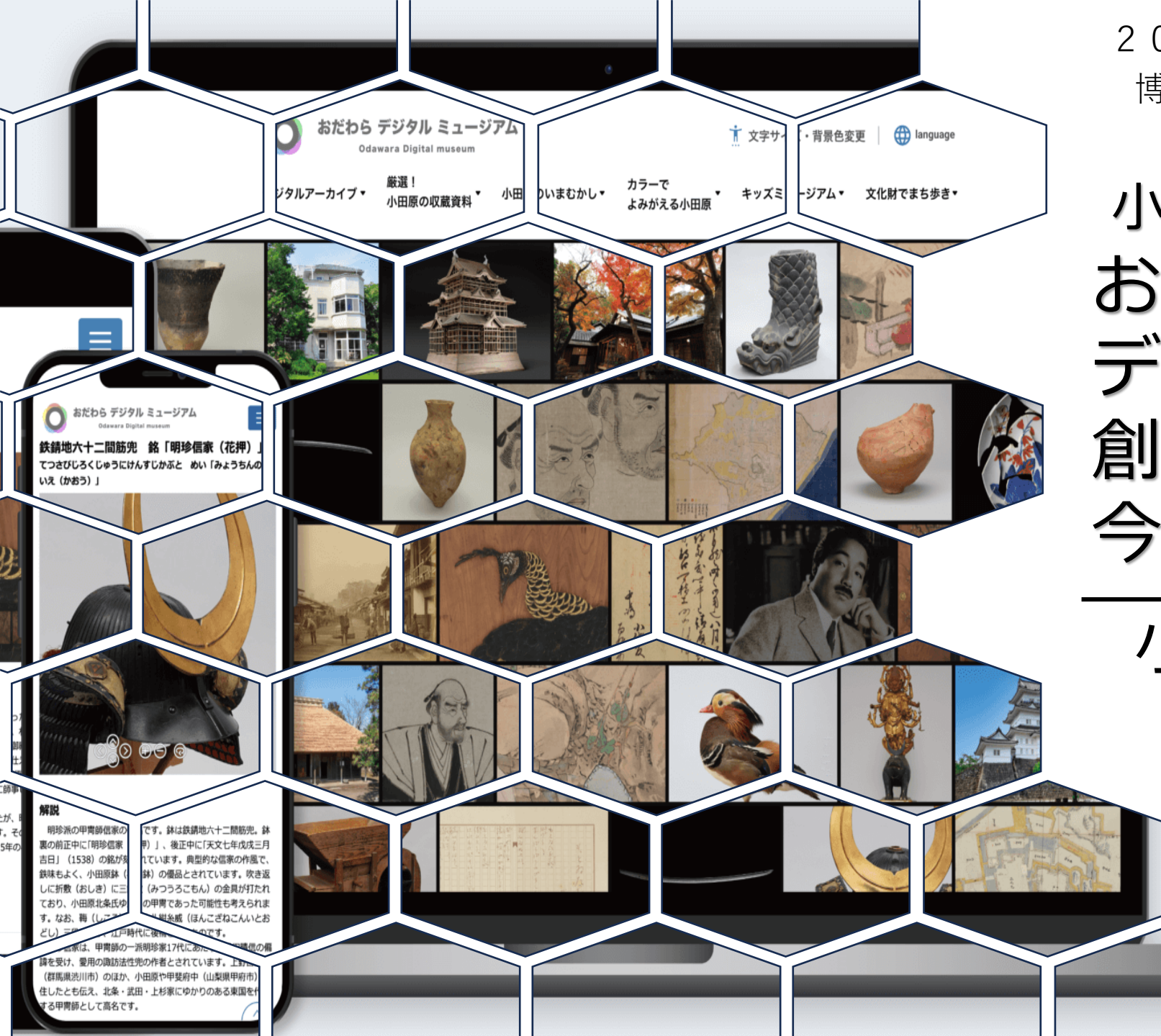


2024年6月6日 デジタルアーカイブ学会  
博物館デジタルアーカイブの現在地 (第1回)

# 小田原の宝を世界に発信 おだわら デジタルミュージアム 創設に至る経緯と 今後の展開

小田原市郷土文化館  
吉野 文彬



# 1 郷土文化館の諸問題

## (1) 施設の老朽化

1955年 旧市立図書館に開館  
(現在小田原市観光案内所)



1971年 常盤木門



1973年 旧神奈川県立小田原  
婦人専修職業訓練校



# 1 郷土文化館の諸問題

## (2) 収蔵庫の飽和状態



## 2 小田原市博物館基本構想について

小田原市博物館基本構想 策定(平成29年1月)

目指す姿

-小田原の歴史を未来へ伝え市民とつくる博物館-

新しい  
博物館  
に求め  
られる  
方向性

小田原の歴史・文化を伝える  
誰でも使いやすい  
市民と育てる  
学校教育と連携した  
災害に強い  
連携の中核となる  
情報を集約し発信する

小田原の歴史・文化に関する情報について、収蔵される博物館資料だけではなく、既存施設で収蔵する博物館資料の情報や、地域資源の情報を広く収集し、一元管理することを目指す。  
また、博物館資料のデジタル化を推進し、管理する情報を利用者が活用しやすい環境を整え、併せて収集した地域資源の情報の活用が図れるよう、積極的に情報を発信する。

# 2 小田原市博物館基本構想について



▲ いざというときに

## 小田原市郷土文化館所蔵資料紹介

小田原市郷土文化館では、歴史、考古、民俗、自然、美術資料など、小田原の豊かで多様な物語を伝える資料を所蔵しています。資料収集には、寄贈や寄託、採集などの方法がありますが、多くは市民のかたからご寄贈いただいた資料です。郷土文化館で展示している資料は、所蔵している資料のほんの一部です。

小田原市では、平成29年1月に博物館基本構想を策定し、市内にあるさまざまな文化財を「小田原の宝」と位置づけました。「小田原の宝」を活用するため、郷土文化館では資料の再整理を進めています。

ここでは、整理した資料を順次公開し、ご紹介します。

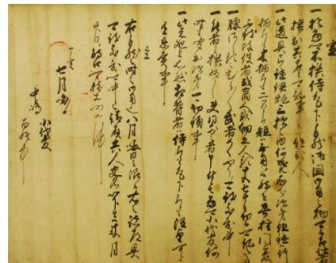
## 分野一覧



✧ [民俗資料](#)



✧ [考古資料](#)



✧ [歴史資料](#)

✧ [資料一覧はこちらをご覧ください](#)

[千代寺院跡出土瓦【市指定文化財】収蔵資料リスト PDF形式 :120.7KB](#)

## ピックアップ資料紹介

### No.10 鬼瓦

鬼瓦は瓦葺き建物の屋根の大棟などの端部に葺かれ、雨水の侵入を防ぐ役割を果たしています。8世紀以降には官衙（現在の役所）建築などにも広く用いられるようになり、邪気を払い、福を招く思想から、鬼面文や獣身文の鬼瓦が主流となっていきます。本資料は昭和26年2月5日に千代中学校で発見されたことが裏面に墨書きされています。年代としては、千代寺院の創建期（8世紀初頭頃）から再建期（9世紀後半代）にかけての資料と推測されます。

武蔵国分寺から出土した鬼瓦と同範関係（同じ範＝型から作り出された）にあるとされており、さらに瓦の表面に見られる範傷のありかたから見て、相模国から武蔵国へ範が移動したのではないかと考えられています。



鬼瓦



# 3 仕様書作成と契約に至るまで

## (1) 仲間集め

ア 庁内の文化財資料所管施設との調整

- ・ 関係所管学芸員会議

## (2) 庁内調整

ア 契約検査課

イ 財政課

# 3 仕様書作成と契約に至るまで

## (3) 仕様書の作成

- ア 学芸員やデジタルアーキビストなどの有資格者がいること
- イ 各関係所管がデジタル化を行いたい資料の抽出と順位付け
- ウ 自走を考え、職員が改修しやすいシステムの構築

## (4) 契約に至るまで

令和4年3月	交付金採択	8月	プロポーザル
6月	議会承認	9月	契約
7月	仕様書作成	令和5年3月	業務完了

### 3 仕様書作成と契約に至るまで

#### (5) 仕様書での目標数 (カテゴリ 1)

高精細撮影 8050枚

3D撮影 16点

適切な手法でデジタル化

研究報告 58冊 (OCR化)

二宮尊徳生家ドローン撮影

図書資料 約1800冊

写真プリント 約6000枚

動物標本 約200点

記録写真 (民俗資料撮影)

目録登録

約66000 (想定)

整理・目録作成・デジタル化

植物標本 約6100点

魚類標本 約200点

図書資料 約2000点

各種コンテンツ作成

小中学校副読本HTML化

文化財マップ作成 など



### 3 仕様書作成と契約に至るまで

#### (6) 仕様書で優先順位を指定 (カテゴリ 2)

35mmフィルム	1,556コマ	マイクロリール
オープンリール	63本	321,227コマ
16mmフィルム	69本	発掘調査報告書
ガラス乾板	1,580枚	243冊
VHSのデジタル化	14本	
絵葉書・紙焼き写真	750枚	
フィルム	25,000コマ	
ドローン撮影	4施設	
イベント動画撮影	1イベント	

# 4 デジタルミュージアム構築について

## (1) 業務全般について

ア 業務期間：約6か月

イ 業務に携わった職員：

事務局：郷土文化館3名（うち1人は、撮影担当）

尊徳記念館・文化財課・中央図書館

小田原城天守閣

人数：約10人

※外部協力として、県立生命の星・地球博物館 等

ウ 定例会の実施

関係所管+受託業者

# 4 デジタルミュージアム構築について

## (2) 定例会での主な審議内容

### ア デジタル撮影の進捗状況

- ・撮影スタッフの多数が、学芸員資格保持者
- ・短期間で撮影完了

### イ 目録項目の設定

- ・従来の「基本フォーマット」を項目追加検討
- ・特に自然系の項目は未完成

### ウ コンテンツ制作状況

### エ サイトビジュアル

## 4 デジタルミュージアム構築について

### (3) 業務完了後

考古資料	3 2 件	写真資料	5,3 3 4 件
歴史資料	3 4 7 件	建造物	1 1 件
民俗資料	4 7 3 件	史跡	0 件
美術資料	1 5 0 件	自然科学資料	9,0 1 1 件
文学資料	9 8 件	天然記念物	0 件

※写真つきで公開をした資料件数

# 4 デジタルミュージアム構築

## (4) 具体的な作業 (民俗資料)

棚やテンバコに番号付与



写真撮影



撮影した資料に撮影番号を付与



既存の目録等と照合



## 5 今後に向けて

### (1) アーカイブ・コンテンツの拡充

- ア 資料撮影・目録整備・権利処理・アーカイブへ掲載
- イ より魅力的なコンテンツの追求

### (2) 教育現場との連携強化

- ア 学習指導案を作成
- イ アーカイブと学習指導要領コードとの連携
- ウ 「教員のための博物館の日」への参加

### (3) 外部データベースとの連携

- ア ジャパンサーチ
- イ サイエンスミュージアムネット

# 小田原の宝を世界に発信 おだわら デジタルミュージアム 創設に至る経緯と 今後の展開

小田原市郷土文化館  
吉野 文彬

